

[18]九州大学応用力学研究所技術職員技術レポート 表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1929671>

出版情報：九州大学応用力学研究所技術職員技術レポート．18，2017-10．九州大学応用力学研究所
バージョン：
権利関係：

技術レポートの発刊に寄せて

応用力学研究所長 花田 和明

第3期中期目標・中期計画期間が開始されて1年以上が経過しました。応用力学研究所は、第2期中期目標・中期計画期間中に整備した3部門3研究センター体制を維持しつつ、学内連携や異分野融合・国際研究拠点化に向けて一層の飛躍が望まれます。一方、大学や研究所を取り巻く環境はめまぐるしく変化し、多くの研究者がその対応に追われています。我が国の科学・技術の情勢は、危機感を持って分析がなされている状況です。最も重要なことは研究者が必要な研究時間を確保できることであり、この意味において研究支援者の役割の重要度を増しています。

応用力学研究所技術室は、研究を効率的に支援できるように九州大学内で最も早く組織化されました。技術職員は、研究所や技術室に対する全体的な支援を優先しつつ、派遣先での専門性の高い技能を継承し、共同研究の支援を行っています。3研究分野に関連した班構成（環境利用技術、大気海洋技術、核融合技術）を横糸、取得すべき技能に応じた4グループ（機械工作、電気電子、情報基盤、環境整備）を縦糸とし、これらをつなぎ合わせることで専門性と技能向上を両立させる戦略をとっています。古くから組織化された技術室だからこそ取れた戦略ですが、一方個々の技術職員の派遣先での業務とのバランスをとることに苦勞してきた面も否めません。

今年度より、技術室員が一堂に会することのできる技術室を応用力学研究所本館2階に整備いたしました。昨年度末より技術職員との議論を重ねて、応用力学研究所内の3つの委員会（公開研究発表会等実行委員会、計算機専門委員会、建物環境整備委員会）を廃止し、これらの業務を技術室と応用力学共同研究拠点支援室共同で行うことといたしました。これらの改革により、技術室が研究所全体の業務を担うことで研究者の研究時間の確保に貢献するとともに、縦糸と横糸のバランスが整合して一層の発展を遂げていく契機となることを切に願っています。

本技術レポートは、技術職員の研鑽の場であるとともに、技術・技能の高さを広報する役割も担っています。本レポートが多くの方の目に触れて、応用力学研究所技術室のことを知っていただくとともに、その内容が社会や研究の場からの要請に応えることになれば幸いです。